

西日本小学児童におけるアレルギー疾患 有症率調査 1992、2002、2012年の比較

出典 日本小児アレルギー学会誌 (0914-2649) 27 巻 2 号 Page149-169 (2013. 06)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2014016402>)

著者 西間三馨 他

調査地域 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、大分県、宮崎県、
山口県、沖縄県、兵庫県、香川県

調査時期 1992 年、2002 年、2012 年

調査対象 小学生 (6~12 歳)

依頼数 35327 人

回収数 (率) 33915 人 (96. 2%)

有効回答数 (率) 33902 人 (96. 0%)

診断方法 過去の医師による診察

有症率 1992 年 : 16. 5%

2002 年 : 13. 7%

2012 年 : 11. 7%

学年別有症率	2012 年	1992 年	2002 年
小 1	12. 4%	18. 8%	14. 0%
小 2	12. 0%		
小 3	12. 0%		
小 4	11. 3%		
小 5	10. 7%		
小 6	12. 1%	15. 5%	14. 2%

男女別有症率	2012 年	2002 年	2012 年
男全体	12.1%	16.5%	13.7%
小 1	13.0%		
小 2	12.9%		
小 3	12.5%		
小 4	11.6%		
小 5	11.0%		
小 6	11.5%		
女全体	11.4%	18.1%	13.9%
小 1	11.7%		
小 2	11.0%		
小 3	11.4%		
小 4	11.0%		
小 5	10.4%		
小 6	12.7%		

調査概要

西日本 11 県の同一小学校を対象に同一アンケートによるアレルギー疾患の有症率の経年変化を調査した論文。過去の医師の診断に基づく AD の有症率は 11.7%と 2012 年には減少し、学齢での差は認めなかった。